

公立大学法人福知山公立大学令和2年事業年度業務実績報告書に係る質問票

番号	年度計画番号	質問事項	回答
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・年度計画の最初に、「効果等(教育の質の向上の観点から)の検証を行うとあるが、検証は行ったのか? ・「後学期授業開始に向けたアンケート調査では、何に困って、それに対して大学はどのような対応をしたのか? ・グローバル特別講義の 10 科目は地域に出て行って学ぶ科目が多いと思うが、コロナ禍で、地域と学生との対応をどのように行ったのか? 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 2 年度より新たなカリキュラムをスタートさせたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、授業の開講方法が変わるなど状況が変化したため、後学期授業開始に向けたアンケート調査を実施し、遠隔授業においても、対面の授業と同等の教育の質が保証するとともに、カリキュラムの効果等の検証を行った。 ・本アンケートにより、教員・学生ともに遠隔授業に慣れていないことにより授業の中でトラブルがあることが分かった。学生の要望に対し、インターネット環境が不安定な場合の対応として、大学の施設を利用させたり、教員の技術的なサポートとして学生アシスタントを雇用したりするなど授業がスムーズに進行するよう改善した。また、教員全員にアンケートで把握した遠隔授業の受講にあたって困っていることを共有し、個々の授業での対応を促した。 ・グローバル特別講義は、より専門性を高めるものや地域の方を講師に招くものなど、学びを深める講義を中心とした科目のため、フィールドワークは行っていない。他方、ゼミ・演習等の授業において、学外で実習を行う場合は、受入側の承諾をとり、三密を避けるなど、新型コロナウイルス感染症に十分注意することとし、学外実習(フィールドワーク)等申請書を教員が大学に提出し、事務局で実施内容を確認の上で学外での実習を行った。
2	2	23 人が受講し、6 人のみの単位認定というのはどういうことか? 2 事業所以上への実習に参加した者のみが単位を取れるということか?	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域キャリア実習」は、単位認定を希望する学生のうち、以下の単位認定の基準(実習時間等)を満たした受講学生に単位認定を行っている。 <p>【単位認定の基準】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①所定の学修時間数(1 単位当たり 45 時間) ②実習日誌及び報告書の提出 ③地域キャリア実習の報告会への出席 ④実習受入先の評価 <p>※実習に参加する事業所数の要件は定めていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域キャリア実習は 2 単位の科目である。①では事前事後学修を含む 90 時間程度の学修時間が必要になるため、概ね 10 日程度の実習を行う必要がある。令和 2 年度は、地域キャリア実習を受講した 23 人の内、条件を満たした 6 人の単位を認定した。
3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・評価を実施したとあるが、評価結果はどうだったのか? ・学修アウトカムは十分達成されたのか? 	<ul style="list-style-type: none"> ・学修評価票(ルーブリック)の導入により、各教員にとって、科目ごとに達成すべき成果を共通化しており、評価結果(単位修得率)は、地域経営演習Ⅰが 100%、地域経営演習Ⅱが 99.0%、地域情報 PBL 入門が 96.3%であった。 ・学修評価票の達成度を測る基準を基に測定した結果、科目認定の際に予定した学修アウトカムも概ね達成できた。評価に係る学生からの質問にも客観性を持って答えることができるようになった。

番号	年度計画番号	質問事項	回答
4	4	5件の学習プロジェクトに、何名の学生が参加したのか？	<ul style="list-style-type: none"> ・延べ 46 人(実人員 37 人)の学生が学生プロジェクトに参加した。内訳は以下の通り。 ① 獣害対策用ドローン開発のための基礎実験 5 人 ② 福知山イル未来と 2020 プロジェクトンマッピング 10 人 ③ 観光者行動分析～福知山ならびに周辺地域のキャラクターブランディングとデータ分析～ 10 人 ④ 子どもの居場所づくり 17 人 ⑤ 子どもの居場所調査 4 人
5	5	<p>授業評価アンケートの実施方法、設問、回答傾向などについてご教示ください。</p> <p>また、示された回答率について、想定範囲内であったか否かについてもコメントください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートは、全ての開講科目(ゼミや集中講義を含む。)を対象に前学期及び後学期において、それぞれ授業の 14 回目から 15 回目に時間を設けて実施し、授業中に実施できない場合は、実施期間中に回答可能とした。学生は、教学情報システムによる Web 回答とし、選択方式 13 項目と記述方式 2 項目の 15 項目の設問を回答した。回答傾向として、前学期・後学期ともに授業の予習・復習に関する項目が低い点数となった一方で、教員の熱意や意欲、学生の質問に対する適切な対応などの項目が高い点数となった。 ・令和 2 年度の回答率は、Web 方式の初年度である令和元年度(前学期 78%・後学期 73%)を下回ったものの、通常 Web 回答では回答率が低下することを踏まえると想定範囲内であった。 【回答傾向】 ・令和 2 年度授業評価アンケートの全体集計結果は別添のとおり。 【授業改善への反映】 ・教員に、全体集計結果と授業単位の集計結果を個別通知する。 ・集計結果を受けて、教員が学生意見等に対するコメントを記述するリフレクションペーパー(振り返りシート)を作成する。 ・全体集計結果及びリフレクションペーパーの「受講生へのコメント欄」を学生に公開する。 【アンケートの設問】 ① この授業を履修するにあたり、シラバスを事前に読みましたか。 ② この授業を履修した理由を下記から選んでください。 ③ あなたは毎日平均どれくらいこの授業の予習・復習をしましたか。 ④ この授業の欠席回数は何回ですか。 ⑤ この授業に対して意欲的に取り組みましたか。 ⑥ 教員の話し方や説明方法が分かりやすかったですか。 ⑦ 授業に対して興味・関心が持てるよう工夫されていましたか。 ⑧ プリントなどの教材が見やすく分かりやすかったですか。

番号	年度計画番号	質問事項	回答
			<p>⑨学生の質問に対して教員は適切に対応しましたか。</p> <p>⑩教員の熱意や意欲が感じられましたか。</p> <p>⑪シラバスに記載してある到達目標が、授業で明確にされていましたか。</p> <p>⑫シラバスに記載してある到達目標は、どの程度達成できましたか。</p> <p>⑬この授業を5点満点で評価した点数を下記から選んでください。</p> <p>⑭この授業の良かった点(遠隔授業の場合は、遠隔授業の良かった点を含む。)を記載してください。</p> <p>⑮この授業で改善してほしい点(遠隔授業の場合は、遠隔授業の改善点を含む。)があれば記載してください。</p>
6	6	組織的なチェックを行ったとあるが、具体的にどのような体制で、どのようなチェックを行ったのか？	<p>・組織的なチェックとは、学内教員 7 人で組織する教務委員会が組織的に点検する体制によるものであり、点検項目をチェックリスト化することで、統一的な視点で全ての教員(非常勤教員を含む。)のシラバス内容の点検を行った。同委員会は全学組織であるため、学科ごとの科目に学科に係る教員を割り当て、例えば、到達目標を明確に定め、評価基準の関連性が確保されているかなどの内容を点検した。教員が点検した結果は、委員会で集約し、事務局より科目担当教員にフィードバックし、点検結果を反映することでシラバス内容の充実を図った。</p>
7	8	「年度計画」が4点あるが、「計画の実施状況」6点との相関関係(どの実施状況が、どの年度計画に対してなのか)教えていただきたい。(以下 81 にも共通)	<p>・年度計画 1 番目「自己点検・評価の方法の点検と検証」 ⇒業務の実績 1 番目の「上半期進捗管理」が対応している。本法人では、令和元年度から自己点検・評価の一環として、年度計画の進捗管理の点検を実施している。</p> <p>・年度計画 2 番目「評価委員会の課題対応」 ⇒業務の実績 2 番目の「法人評価の指摘事項に対する取組み」が対応している。</p> <p>・年度計画 3 番目「年度計画の進捗状況確認」 ⇒業務の実績 1 番目の「上半期進捗管理」が対応している。</p> <p>・年度計画 4 番目「自己点検評価」 ⇒業務の実績 1 番目の「上半期進捗管理」と業務の実績 3 番目の「自己点検・評価」が対応している。</p> <p>なお、業務の実績 4 番目「IR 活動」、5 番目「内部質保証の取組み」、6 番目「自己点検・評価の実施」は、令和 2 年度年度計画に掲げた取組みではないため、中期計画を達成に関わる実績として記述した。</p>
8	9	地元地区別担当職員が高校訪問をされた際の、高校側の意見・要望や大学の評価などについてご教示ください。	<p>・本学に対する高校からの主な意見等は以下の通りである。</p> <p>《意見》</p> <p>①情報学部の進路実績がまだ分からないので、生徒や保護者に勧めづらい。</p> <p>②医療福祉経営学科について、福祉を学びたい生徒に勧めていいのかが分かりにくい。</p>

番号	年度計画番号	質問事項	回答
			<p>③地域経営学部の進路次第では、生徒や保護者に勧めやすくなる。</p> <p>④継続的な教員との授業に関する連携を行いたい。</p> <p>⑤学校推薦型選抜地域枠の募集人員が見直され、地域枠を勧めやすくなった。</p> <p>《要望》</p> <p>①北部地域に定着する教員養成のために、教職免許が取ることができるようにしてほしい。</p> <p>②学校推薦型選抜の出願資格(評定平均値 3.8 以上)を緩めてほしい。(私立大学の指定校推薦との競合となり、指定校を選択してしまうなど。)</p> <p>③個別試験(小論文)の内容を変更してほしい。(地域経営学部の英文出題を敬遠する生徒が多い。)</p> <p>④情報学部は数学の試験を課してほしい。理系は小論文試験を敬遠すること、また大学入学共通テスト後の対策が難しいこと。</p> <p>⑤受験機会拡大のために総合型選抜を導入してほしい。</p> <p>⑥福知山市だけでなく、北近畿地域からの進学者に対する入学金等の支援制度をつくってほしい。</p> <p>《大学への評価》</p> <p>①理系の進学先として情報学部ができたことは進路選択が広がり、歓迎している。</p> <p>②一般選抜は難易度が高いイメージになった。</p> <p>③学生や教職員がよく地域で活動している(新聞等によく見る)。</p>
9	9	令和4年度より高等専門学校(高専)の学生の3年次編入学を導入されるが予定される編入学定員は?(以下12、69にも共通)	・編入学定員は2人である。
10	9	(1)専任職員の出張講義や大学説明の回数と、(2)教員による出張講義、職員による大学説明等の回数が異なっているが、どれが正しい数字か? (以下、12、69にも共通)	・(1)は三たん地域の高校、(2)は三たん地域以外の高校に対応した回数である。
11	9	令和4年度から実施される編入学制度について、定員や想定(期待)される高等専門学校(近隣 or 全国)があればご教示ください。 (以下、12、69にも共通)	<p>・想定している受験者としては、本学部の学びに関連する科目を履修している高等専門学校生である。その中でも、特に同じ北近畿地域内にある舞鶴工業高等専門学校が候補として考えられる。</p> <p>・令和4年度の編入学選抜の実績として、1人の合格者を出した。</p>
12	10	推薦と一般との成績差異はないとの理解で良いか?	・ご認識の通り、推薦選抜と一般選抜に明確な差異は見られなかった。

番号	年度計画番号	質問事項	回答
13	13	新たな施策として塾・予備校への訪問(18件)や資料送付を行われたがどのような地域を対象に実施されたのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問したのは主に愛知県及び兵庫県内の塾・予備校である。塾・予備校は夕方から開校していることが多く、基本的には日中の高校訪問後に訪問することから、訪問地域と重複することになる。 ・資料送付は、全国の大手予備校と、東海・北陸・近畿・中四国を中心とした塾(個人塾を含む。)を対象に実施した。
14	13	出張講義34回の実施を通して把握できたことと、それらを学生募集活動の改善にどのように結び付けることが出来たのかを教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度は多くの大学が講師派遣に慎重となり、高校側は出張講義・大学見学に代表される進路行事の開催そのものに腐心していた。そういった状況下で、可能な限り対応した本学は、生徒へのアピールももちろんであるが、高校教員に対しても大きなアピールができ、本学の知名度の向上につながったと考えている。加えて、教員が出張講義に数多く対応することによって、教員の研究分野に興味を持ち入学する生徒も増加したと考えられる。 その結果、令和3年度入学者アンケート調査では、本学の志望順位を第一位と回答した者が、回答者の75%となり、前年度の51.7%よりも改善した。さらに、高校訪問時のヒアリングなどから、高校の授業や進路指導では対面形式を重視している様子が伺えた。これに従い、令和3年度の募集活動においては、遠隔形式での個別相談やWebオープンキャンパスなどを実施しているが、継続的な訪問活動や教員説明会(6月下旬から7月上旬に実施、全12会場)の実施、オープンキャンパス開催などでは、「対面形式」を特に重視した活動を行っている。
15	21	キャリアコンサルタントは民間でしょうか？	<ul style="list-style-type: none"> ・民間ではなく、キャリアコンサルタント資格(国家資格)を有した専任職員1人が学生就職相談の対応を実施している。
16	23	地域と世界をつなぐグローカリズム研究実践の拠点大学を目指す大学としては、TOEIC 600点以上の人数が少ない。このようになった主要な原因が何かを教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の実績として記述した学生の資格取得状況は、キャリア支援の一環で把握している教育後援会の資格合格奨励制度を受給した学生の状況であり、制度を利用していない学生の資格取得状況は把握していない。学内でもTOEIC 600点以上の人数を目標として設定していないこともあり、ご指摘のとおり、人数は少なかった。
17	23	年度計画にある程度の数値目標があっても良かったのではないかと？	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得実績は教育後援会の助成事業による把握しているものであるため、法人としての目標を掲げることが困難であった。ただし、キャリア支援の一環で、資格取得の推奨と取得状況の把握は、引き続き実施していく考えである。
18	26	“地域に資する地域経営研究の拠点大学”を目指す大学として、年度計画には「開学以来本学が取り組んできた「地域協働型教育研究」の成果と課題を市民に対して説明する報告会を開催する」とあるが、これは中期目標の達成につながる適切な計画で大事なことである。実施状況を見ると、令和2年度の研究テーマを文理連携型の教	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度は、7人の教員による研究チーム(北近畿地域研究会)を組織し、学長裁量経費である研究活性化助成金を活用して「地域協働型教育研究」の現時点での具体的な地域研究の成果と課題を地域経営学の視点からまとめ、研究紀要別冊第3号として刊行した。あわせて、当該研究の成果報告会を令和2年度前期に開催する計画であったが、新型コロナウイルス感染症の影響や情報学部開設による業務の増加等に起因し、成果報告会を開催できなかった。この点については、ご指摘のとおり年度計画通りの履行ができておらず、ご意見を真摯に受け止

番号	年度計画番号	質問事項	回答
		<p>育研究に変更したことを理由に計画を実施しなかったとあるが、計画を実施しなかった理由として合理性があるのか理解が難しい。</p> <p>研究テーマを変更したのであれば尚更説明を実施した方がよいとも考えることができる。</p> <p>未実施であるのに評価3とするのであれば、相当する理由が必要だが、計画を実施しなかったことに対して何か特別な理由があれば教えていただきたい。</p>	<p>めたい。</p> <p>一方で、本学が掲げる地域協働型教育研究の下、地域経営学部と新たに開設した情報学部との文理連携を推進するため、5つの研究テーマに取り組み、その成果を研究紀要別冊第4号として刊行した。加えて、情報学部内に地域協働拠点を形成し、地域協働を実践するための窓口として令和3年度中に部会を設けることを決定した。</p> <p>北近畿地域研究会の成果発表会は開催できなかったが、「地域に資する地域経営研究の拠点大学」として新たな取組みを開始したことに鑑み、自己評価を「3」としたものである。</p>
19	28	③のところに TR コードとあるが、QR コードのことか？	<p>・「TR コード」とは、中央に綾部市立東綾小学校のマークを配置した QR コードのことであるが、通常の QR コードでは、そこで表現される内容はどのような文字列であっても QR コードとは関係がない。しかし TR コードは、中身の文字列がシステムの一部を構成しており、システム独自の動作をするように作られたものとなっている。言い換えれば、QR コードと互換性がある外観なので、独自アプリを利用することなく既存 QR コードリーダーアプリによって動作させることができるようになっている。</p>  <p>TR コード</p>
20	34	学術振興会のプロジェクトで 1,385 万円の事業が採択されたとの記載がありますが、下部の外部資金獲得総額の 1,945 万円中に含まれるのでしょうか？	・本プロジェクトの 1,385 万円は、研究期間(令和2年10月から令和5年3月まで)を通じた総額(直接経費 1,065 万円、間接経費 320 万円)である。令和2年度外部資金獲得総額 1,945 万円に含まれる額は、受託研究 286 万円(直接経費 220 万円、間接経費 66 万円)となっている。
21	34	③前年度、審査結果 A であった… の 審査結果 A とは？	・科学研究費助成事業の不採択には審査結果 A、B、C の区分があり、A が採択に最も近い判定順位である。そのため、本学では、不採択ながら審査の順位が A であった者が翌年度も前年度と同一研究種目又は当該研究種目以上に相当する研究種目に応募する場合、当該教員の科研費の採択に向けての挑戦を支援するため、科研費再挑戦支援事業として、研究費を助成している。
22	40	連携研究員は具体的に 4 名とあるが、大学と民間企業の構成は？	・他大学 1 人(准教授級)、民間企業 3 人(管理職 1 人、研究員 1 人、エンジニア 1 人)である。
23	43	地域協働の中に 3 市(福知山市・朝来市・丹波市)と「高大連携研究会」が設置されているが、北近畿を一つのフィールドと捉えるとき他の市町等との連携状況についての考え方と現状(進捗度合	・福知山市・朝来市・丹波市との連携は地方創生交付金の枠組みの中で始まったものであり、高大連携研究会もこの連携事業の一環としてスタートし、朝来市の生野高校、丹波市の柏原高校でも共催し、年2回ずつ研究会を重ねてきた。ただし、両校に限らず広報は広く行っており、参

番号	年度計画番号	質問事項	回答
		等)についてお聞かせ願いたい。	加者としては北近畿一円からの参加がある。今後も北近畿一円をターゲットに研究会を継続していきたい。
24	43	高大連携の本来の目的は何か？地域の高校生を福知山公立大学に結びつけること、応募数を高めること、あるいはもっと大きな視点での高校教育と大学教育との融合なのか？	・本学における高大連携の目的は、地域の課題解決や学生・生徒のキャリアのミスマッチ防止、教員の能力向上のためにも、大学教員と高校教員が気軽に情報交換や意見交換、ともに学べる場(コミュニティ)を創造することである。その一貫として近年では研究会の開催に留まらず、高校の探究学習への伴走支援(福知山高校、大江高校、峰山高校、宮津高校、加悦谷高校、綾部高校、生野高校、柏原高校など)や学校運営協議会への参画、京都府5市2町に高校連携事業の創設、学生により高大連携事業の創設、研修講師派遣、といった様々な連携を進めている。また現在京都府教育委員会との協力事業(文部科学省受託事業)の議論が進めており、高校生のための先取り履修の制度化に向けて鋭意議論を展開中である。
25	53	「年度計画」が4点あるが、「計画の実施状況」6点との相関関係(どの実施状況が、どの年度計画に対してしているのか)教えていただきたい。	・年度計画1番目「SD研修会の開催」 ⇒業務の実績1番目の「教職員対象の研修」が対応している。 ・年度計画2番目「教職員の研修」 ⇒業務の実績1番目の「教職員対象の研修」が対応している。 ・年度計画3番目「事務職員の研修及び外部研修への派遣」 ⇒業務の実績2番目の「協議会」、業務の実績3番目の「Zoom基本操作の研修」、業務の実績4番目の「事務研究会」、業務の実績5番目の「外部研修」及び業務の実績6番目の「外部研修」が対応している。 ・年度計画4番目「職員から要望のある研修の実施」 ⇒業務の実績3番目の「Zoom基本操作の研修」が対応している。
26	55	各種 SNS での発信件数が前年度から大きく減少していますが、その理由をご教示ください。	・発信件数が減少した Facebook や Twitter では本学における日々の活動を中心に投稿しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により対面授業やフィールドワーク、課外活動の自粛など、活動機会の減少に伴い発信件数が減少した。
27	55	地域研究プロジェクト報告会は、せっかくの報告会にも関わらず参加者数が少ないが、ハイブリッドでは行わなかったのか？(以下56、58にも共通)	・「参加者と研究者との交流の場を創出する」ことに主軸を置き、参加者から多くの質疑や感想、提案など自由に発言しやすい場を創出することを目的としてポスターセッション※にて開催したため、ハイブリッド方式での実施はしなかった。ご指摘のとおり参加者数が少なかったため、今後はより多くの人に参加いただけるよう検討したい。 ※ポスターセッション:研究内容をポスターにまとめて掲示し、来場者に説明する発表形式のこと。
28	62	財務会計システムの運用による計画的(効果的・効率的)な予算執行に当たり、予算内示をはじめその周知方法とその後のフォローアップをどのような形で成されているのか伺いたい。	・予算内示は、財務会計システムへの登録とあわせて、担当部署へメールにて周知している。予算執行状況は、事務担当者が財務会計システムにて確認ができるが、教員研究費等の執行状況については、教授会において四半期ごとに報告を行い予算の効率的執行を促した。

番号	年度計画番号	質問事項	回答
29	65	<p>大学が想定されている、多様で柔軟な人事制度とは、どういった内容なのか。</p> <p>この項番は、多様で柔軟な人事制度を検討することができなかったから2なのか？</p>	<p>・令和元年度に「公立大学法人福知山公立大学クロスアポイントメント制度※に関する規程」を制定し、教育、研究及び産学連携活動の活性化を推進するため体制を整備した。しかしながら、全教員が複数の授業担当や授業以外の校務を担っているため、現実的に今の段階で制度を運用することが困難で、検討することができなかったため、評価を「2」とした。</p> <p>※クロスアポイントメント制度：法人の教員の身分を保有したまま法人以外の機関の職員として雇用され、法人及び当該相手方機関の業務を行うことができる制度のこと。</p>
30	65	<p>教員は全て5年の任期制であったか？それともここでの記述は、任期制教員のみについての記述か？</p>	<p>・教員には5年の任期がある教員と任期のない教員がいる。業務の実績での記述は、公立化時に採用され、5年の任期を迎えた教員のことである。</p>
31	70	<p>自己財源の増加に関する目標についての計画なので、3項目の内容は、目標とは相違するのではないか。</p> <p>学生の生活支援と授業料の免除の関係について、奨学金制度や生活支援の給付金制度を導き、学生を支援していくことについては評価する一方で、学費を免除されることが、大学としては財務面に影響を及ぼす結果にならないのか？また、学費を免除することが、今後の大学の運営や発展に良い影響を及ぼしていくことがあるのなら教えていただきたい。</p>	<p>・本項目は「学生納付金の適正な額が設定」が中期目標であるため、学生納付金の納付額に関わる事項は中期目標及び中期計画に関連するものと判断し、3項目を業務の実績に記述した。</p> <p>・授業料免除に関して、本学独自の緊急授業料減免制度を設け、学生の修学支援に取り組んだところであるが、その実施財源は国及び設立団体である福知山市からの支援により減収補填されており、本学としての財務面に影響はない。</p> <p>・学生納付金減免による学生の修学支援を行い、学生が安心して修学を継続できる環境を整えることは、優秀な学生が経済的理由で修学を諦めないことに繋がり、ひいては長期的な大学の価値を上げるものと認識している。本学は「市民の大学、地域のための大学、世界とともに歩む大学」を基本理念に掲げ、地域で活躍する学が意欲ある学生の支援が、今後の大学運営や発展、地域や市民への貢献にも寄与すると考えている。</p>
32	71	<p>年度計画の目標値だけから見れば4評価と思うが？</p>	<p>・ご意見のとおり、年度計画に掲げた計画及び数値目標は達成している。一方で、施設利用に関して、新型コロナウイルス感染症の影響により屋外施設の利用が増加し、前年度水準の使用料収入を確保できたものの、収益となる教室等の使用料収入が大きく減少したため、評価を「3」とした。</p> <p>【参考：使用料収入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室(令和2年度7万円、令和元年度30万円) ・グラウンド(令和2年度32万円、令和元年度9万円)
33	92	<p>衛生管理者の職場巡回の実施内容と、月40時間を超える対象者について、周知することについての実施内容の記載がないが、実施はされたのか？</p> <p>労使協定(36協定)に該当する教職員の、ひと月あたりの法定外労働時間(休日労働含む)の上限は、何時間で締結されているか。</p>	<p>・衛生管理者による職場巡回を(月4回程度)実施し、通路に設置された障害物の撤去や照度が低下した照明の交換等を行った。勤務時間外が月40時間を超える職員については、管理職者に対象者の健康状況を確認した上で、衛生委員会において毎月、直近3か月の勤務時間外の報告を行う際に状況を説明し産業医に意見を求めたが、対象者に面談の必要な職員はいなかった。ストレスチェックを実施した際に心身の不調に係る相談先について教職員へメールにて周知した。</p> <p>・労使協定(36協定)に該当する職員の一月あたりの法定外労働時間(休日労働含む。)の上限</p>

番号	年度計画番号	質問事項	回答
			<p>は 45 時間とし、入試や年度始め等の繁忙期による時間外労働の特別条項として 80 時間で締結している。なお、教員は専門型裁量労働制[*]を導入している。</p> <p>[*]専門型裁量労働制:業務の遂行手段や時間配分の決定などに関して、使用者が労働者に具体的な指示をすることが困難な業務において導入されるもので、労働時間をあらかじめ定めた「みなし労働時間」とするもの。</p>
34	94	<p>キャンパスマスタープランに沿った計画実施であれば評価は「3」ではないか。</p>	<p>・キャンパスマスタープランの基本目標である「省エネルギー対策の推進」の方針を踏まえ、施設整備を実施した。</p> <p>・令和 2 年度は、コロナ禍により消費電力量及びガス使用量を削減する結果となったが、評価を「4」としたのは、4 号館空調設備更新に際し、エネルギー消費効率の高いガスヒートポンプ式エアコンを導入(カタログ値:エネルギー使用量 20%以上削減、CO₂ 排出量 20%以上削減)するとともに、学内の既設照明設備の LED に更新し、積極的に省エネルギー化に努めたことによるものである。</p>
35	94	<p>実施状況に記載された内容が、省エネルギーにどのように貢献したから 4 の評価となっているのか、もう少し詳しく教えていただきたい(年度計画の中に、毎月のエネルギー消費量を把握するとあるため、消費量の減少を数値で教えて頂けたら嬉しい)</p>	<p>・エネルギー消費量(消費電力量・ガス使用量)は、学生数・教職員数の増加により消費量が増えた一方で、オンライン授業による教室利用や空調設備更新により消費量が減少する結果となった。令和 2 年度と令和元年度の比較で、消費電力量は 18,380 kWh(△3.4%)の減少、ガス使用量は 15,687 m³(△27.3%)の減少となった。</p> <p>【消費電力量】</p> <p>①令和 2 年度 517,373kWh②令和元年度 535,753 kWh③平成 30 年度 589,517 kWh ④平成 28 年度 587,828kWh</p> <p>【ガス使用量】</p> <p>① 令和 2 年度 41,743 m³②令和元年度 57,430 m³③平成 30 年度 61,952 m³④平成 28 年度 58,590 m³</p> <p>・令和 2 年度は、コロナ禍により消費電力量及びガス使用量を削減する結果となったが、評価を「4」としたのは、4 号館空調設備更新に際し、エネルギー消費効率の高いガスヒートポンプ式エアコンを導入(カタログ値:エネルギー使用量 20%以上削減、CO₂ 排出量 20%以上削減)するとともに、学内の既設照明設備の LED に更新し、積極的に省エネルギー化に努めたことによるものである。</p>
36	94	<p>オンライン授業により消費電力の削減が大幅にできた以外に、4 とする理由はあるのか？</p>	<p>・令和 2 年度は、コロナ禍により消費電力量及びガス使用量を削減する結果となったが、評価を「4」としたのは、4 号館空調設備更新に際し、エネルギー消費効率の高いガスヒートポンプ式エアコンを導入(カタログ値:エネルギー使用量 20%以上削減、CO₂ 排出量 20%以上削減)するとともに、学内の既設照明設備の LED に更新し、積極的に省エネルギー化に努めたことによるものである。</p>

